

人は百二十歳まで生きられる

参議院議員
客員相談役

藤井基之



社会保障と税の一体改革の議論が、通常国会の目玉になりました。消費税の引上げだけが話題になった感がありますが、議論の核心は、「超高齢社会の社会保障体制をどう作り上げるか」です。

一体改革大綱の冒頭にこんな表現があります。「日本の社会保障の財政は、以前は、『胴上げ型』で支えられていたが、今は、『騎馬戦型』、そして今後は、『肩車型』になる。」というのです。少子、高齢化が進み、以前は年金も大勢の現役組の保険料によって賄われていたが、現在は、現役組三人〜四人で一人の高齢者の年金を賄っている、いずれ、現役組一人で一人の高齢者を支えなければならなくなる、と言っているわけです。

日本人の平均寿命は二〇一〇年で女性が八六・三九歳、男性が七九・六四歳

に達したとのこと。医療技術の進歩で、がんなどの治療率が上がると、これからも平均寿命はまだ伸び続け、二〇六〇年には女性は九〇・九三歳、男性は八四・一九歳にまで伸びるという推計があるそうです。人間の寿命は、一体、どこまで伸びる可能性があるのでしょうか。

寿命には平均寿命と最大寿命とがあるそうです。これまで、男性の世界最高齢記録保持者は、日本人の泉重千代さんという方で、百二十年と二百三十七日でした。また女性では、フランス人のジャンヌ・カルマンという人が百二十二年と百六十四日生きられたそうです。人の寿命に関する調査では、おおよそ百二十歳が人の最大寿命ということになります。

ところで、実は最新の生命科学の研

究からも、人の最大寿命は、百二十歳というのが、ほぼ結論だそうです。東大薬学部出身の薬学者、杉本正信という先生の著書「ヒトは一二〇歳まで生きられる。」という本がありますが、その中に「テロメア」の短縮や「ミトコンドリア」の各種酵素活性の減衰といった分子生物学的データから、ヒトは、誰でも百二十歳まで生きられる潜在能力を備えていることがわかってきた。」と、説明されています。難しい学術用語が並んでいますが、要は、次のようなことなのです。

構造部分がある。この「テロメア」の長さは、細胞分裂を繰り返していく過程で少しずつ短縮していき、おおよそ百二十年で限界に達し細胞分裂を停止、役割を終える。このテロメアの長さが百七歳の高齢者まで調べたデータがあり、このデータから、テロメアが限界に達するのは百二十年となる。

次に、人の体細胞の中には、「ミトコンドリア」という細胞小器官が細胞一個当たり百〜二千個ある。このミトコンドリアは、「細胞内の発電所」とたとえられ、人の体の各所でエネルギーの蓄積に関連している。このエネルギーの蓄積に関連するミトコンドリアの酵

素の活性は年を取るにしたがって低下してゆき、百十年ないし百二十年でゼロになる。とまあ、そのメカニズムはさておき、人は百二十歳を生きる潜在能力を持っている、というわけです。

人間、悲しいもので、不健康な、不摂生な生活をして、これらの能力を知らず知らずのうちにツブしている、ということになるのでしょうか。杉本先生も著書のまとめで、何も心がけないで百二十歳まで生きられるわけじゃないと、食生活その他の日常生活の在り方など寿命を延ばすためのライフスタイルを紹介しています。

聖書にアダムとイブの伝説が出て

くる「創世記」という書があります。その中に、「アダムは九百三十歳まで、ノアの方舟のノアの父レメクは七百七十歳、ノアは九百五十歳まで生きた」と記した後、人間の数が増えるとともに人間は神から離れていった、そこで神は次のように言われたと書かれています。

「私の霊は、永久には人のうちに留まらないであろう。それは人が肉にすぎないからだ。それで人の齢は百二十年にしよう。」（創世記第六章第三節）

皆様、お互いに百二十歳まで長生きしましょう。それを支える年金制度。政治家が責任をもって作り上げます。

藤井 基之

- 生年月日 昭和22年3月16日
- 選挙区 参議院比例区
- 当選回数 2回
- 出生地 岡山県岡山市
- 趣味 音楽・読書
- 個人ホームページ

<http://www.mfujii.gr.jp/>

- その他 薬学博士・薬剤師

私の政治信条

私の政策の柱はA(エイジフリー)B(バリアフリー)D(ドラッグフリー:薬物乱用のない社会)社会創りです。

高齢者も、障害を持つ方も、国民誰もが安心して暮らし、元気で生活を送ることのできる長寿社会を創るために何が必要か、を政治活動の根底においています。

好きな言葉「昨日の夢は、今日の希望、そして明日の現実」

活動報告

参議院厚生労働委員会理事として、食品安全確保のための食品衛生法改正、健康増進法改正、薬事法改正、薬剤師法改正、クリーニング業法改正、国民年金法改正等に関与。

経歴

- 昭和37年 岡山大学教育学部附属中学校卒業
- 昭和40年 岡山県立岡山操山高等学校卒業
- 昭和44年 東京大学薬学部薬学科卒業
- 昭和44年 厚生省入省
- 平成9年 厚生省退官
- 平成9年 財団法人ヒューマンサイエンス振興財団専務理事
- 平成12年 日本薬剤師連盟 副会長
社団法人日本薬剤師会 常務理事
- 平成13年 参議院議員(1期目)
- 平成16年 厚生労働大臣政務官
(平成16年9月~平成17年11月)
- 平成19年 日本薬剤師連盟 顧問
- 平成22年 参議院議員(2期目)
- 平成23年 参議院政府開発援助等に関する特別委員会 委員長

その他

- 慶應義塾大学薬学部 客員教授
- 昭和大学薬学部 客員教授
- 東邦大学薬学部 客員教授
- 新潟薬科大学 客員教授
- 京都薬科大学 客員教授
- 近畿大学薬学部 客員教授
- 千葉大学薬学部 非常勤講師